



公園に小さな町が出現！ K A O F E S に参加

自衛隊東京地方協力本部府中分駐所（所長 近藤 1 陸尉）は9月17日、多摩市一ノ宮公園で開催された「K A O F E S 2023」において、第1後方支援連隊の支援を受けて広報活動を実施した。

本イベントは、東京・多摩市の夏を代表するイベントで、突如多摩川の河川敷に子供達が集める街が出現し、子供達は働いて得た疑似通貨を使い様々な体験ができるというもの。

当日は、多摩消防署によるポンプ車体験や多摩中央警察署による白バイ試乗体験の他、地域の50社以上の企業等による様々な出店等により一つの小さな街が完成し、府中分駐所のブースでは子供用迷彩服等を着用して高機動車と記念撮影をする他、災害救助に関するパネル展示を行った。

訪れた多くの子供達とご家族は、災害救助パネルを興味深く見学するとともに、迫力ある本物の高機動車を前に迷彩服を着用し笑顔で記念撮影をしていた。初めて高機動車を見た小学生は「これ僕も運転したい！」と大興奮の様子で良き夏の思い出の一つとなったようだった。

府中分駐所では、今後も各自治体、部隊等と連携しつつ、地域に密着した広報活動を実施して、防衛省・自衛隊に対する理解と興味を獲得し将来の募集活動に繋げていくとしている。



「あんぜんの日」～防災訓練～

自衛隊東京地方協力本部西東京地域事務所（所長 鈴木 2 陸尉）は9月16日、西東京市立保谷第二小学校で開催された防災訓練「あんぜんの日」に参加し、学校からの依頼により、防災体験学習の一部を担当した。

「あんぜんの日」は昨年に引き続き2回目の訓練で、「小学生も地域のチカラ」をテーマに、避難所開設訓練と防災体験学習を並行して実施し、児童自らが保護者や地域住民とともに避難所を開設運営するもの。

当日は、参加者たちに小学生なら誰でも簡単に実施できる「簡易寝袋」及び「応急担架」の作成を体験させ、その体験から学んでもらうとともに、災害派遣で使用する個人装具（背嚢、携帯ショベル・水筒）も体験的に展示し、災害派遣へ参加した隊員の経験談も伝えた。

参加者からは、「家にある物で簡単に作成でき、家でも出来そう。」「楽しく学ぶことが出来た。」「自衛隊の災害派遣のお話を聞いて災害に対する備えが重要だと感じた。」「などの意見をもらった。また自衛隊の災害派遣に関する質問なども多数寄せられ自衛隊の興味関心を高めることが出来た。

最後に所長から、自助、共助の重要性を認識して、自らの命や安全を守り災害に対応してもらいたいと参加者に伝え、自衛隊の体験学習を終了した。西東京地域事務所は、今後もこのような機会を通して自衛隊の活動を伝え、地域住民の安心安全に寄与していくとしている。



秋に響く墨田のJ A Z Z

自衛隊東京地方協力本部江東出張所（所長 目崎 3 海佐）は10月14日及び15日の2日間、墨田区錦糸公園で開催されたすみだストリートジャズフェスティバルで、隊友会墨田支部の支援を受け広報活動を実施し、隊友会会員と一緒にイベントを盛り上げた。

初日は秋晴れの最高にすがすがしい天気となり、錦糸公園は、J A Z Z の音色が響く中、お祭りを兼ねて多くの家族連れ等で賑わった。

江東所のブースでは、大型トラックをブースの横に配置しミニ制服等を準備して万全の態勢を整えると、普段なかなか見る事のできない大きな自衛隊車両に、多くの人たちが興味深々な様子だった。また、大型トラックの荷台に子供達が乗ったり、ミニ制服等を試着してトラックの前で写真撮影が可能であったため、ブースの前にはこの機会に子供と記念写真を撮ろうと行列ができていた。

2日目はあいにくの雨となり来場者が少ない中、江東所のブースでは雨の中お越しいただいた方たちに、自衛隊の隊内生活を楽しく説明すると、子供たちから多数の質問が上がり、さらにその質問に答えたと、ブース内は大いに盛り上がった。

江東出張所では、今後も地域に密着して、対象者のニーズに応じた募集・広報活動を各自治体、地域の皆様、学校及び部隊等と連携しながら実施することにより、防衛省・自衛隊に対する理解を深め、自衛官志願者の増大を図っていくとしている。

